

海外の話題

豊かさの指数

農林中央金庫 ロンドン支店長 中山 昌 生

先日発表された社会経済生産性本部の「国民の豊かさの国際比較」によると日本の豊かさは OECD30 カ国で第 7 位と米国の 12 位や英国の 16 位を上回る結果となったという。一人当たりの GDP はここ数年英国が日本をむしろ上回っているから、今や日本は GDP では表現できない部分において英国より豊かになっているということらしい。興味がわいて GDP 統計以外で豊かさを比較しようとする試みがほかにないかと見てみたところ、国連開発計画 (UNDP) が人間開発指数 (Human Development Index HDI) というのを毎年出していて、日本ではこれが「人間の豊かさをはかる指数」と紹介されているのを見つけたが、これを見ても日本は 7 位で英国は 16 位と、たまたまだろうが全く同じ結果になっている。

しかし国民の実感はどうなのであろうか。私も含めた英国在住日本人や、訪ねてくる旅行者の印象は、やはり英国は日本に比べて豊かだというものだし、国民全体としても豊かさが実感できないとか生活小国とかいわれるように、欧米と比較するとまだまだ豊かな生活を享受できていないという認識が一般的なのではないか。

「豊かさ」という概念自体、相当に曖昧なものだから、いろいろな見方があってもそれは構わないのだが、日本ではこの「豊かさ」が政策目標としても意識されているように思われ、そうだとすればもっと実感に合った、あるいは今後取り組んでいく改善点が明らかになるような、そんなベンチマークがぜひほしいところである。

英国が豊かだと感じる理由はもちろん人により様々だろうが、都市から農村にいたるまで人々が実際に生活・活動している空間が文化的な背景を保ちつつ整っていて美しいこと、すなわち日本にはない生活空間の居心地の良さがあることと、人々が仕事以外の充実した時間を持っていてそれを楽しんでいること、すなわち日本と比較して余暇時間と余暇空間が豊富であることについては皆が感じるところと思われる。

そんな要素をうまく取り込んだ指数をつくったらどうだろうか。具体的には住宅の質、整った街並みの美しさ、身近な緑の空間の豊富さ、余暇時間、あるいは通勤時間＋労働時間といった要素を

うまく指標化することがポイントだろう。上記二つの指数はそうした指標を組み込んではいないゆえに実感とのギャップがあるのではないか。

例えば住宅については日英でそのストックの状況を比較すると、数や面積の面ではさほどの差はないが、耐用年数、あるいは寿命は決定的に日本が短く、そこを反映した指標をうまく作る必要があるだろう。住宅ストックを残存利用可能期間中の（帰属）家賃キャッシュフローの現在価値で測るといえるのはどうだろう。

街並みの美しさ自体を指標化するのは至難の業だが、街並みにとって一般的にネガティブな要素を拾うことである程度代替できるだろう。街中の電柱の数などは比較的拾いやすいように思うがいかがか。都市における公園等の面積比率も重要な指標となるだろう。

物の豊かさから心の豊かさへなどと言われるが、物を心と対置したフィジカルなものと捉えるなら、まだまだ物の豊かさ、具体的には住宅やそれを含む生活空間、生活環境の整備は不十分、それをいかにコンセンサスにするかがとりあえずの課題で、そのために適切な豊かさのインデックスづくりに期待する次第だがいかがだろうか。